分析結果報告書〔5〕1/3

３．２　底質試料（総水銀）

機関コード	
機関名	
電話番号	
国際的な認証等の取得（複数回答可）	１．ISO 9001～9003　　２．ISO/IEC 17025 ３．品質マネジメントシステム(QMS)を構築している（上記１、２を取得していない）
分析担当者 氏名	（　　）
経験年数（年）	（　　）年
実績（年間の分析試料数：試料/年）	（　　）試料/年
分析担当者以外の分析結果の確認	１．あり　　２．なし

＜重金属類の経験等＞

廃棄物の重金属類成分	１．分析したことがある	２．分析したことがない
土壌の重金属類成分	１．分析したことがある	２．分析したことがない
環境水、排水等の重金属類成分	１．分析したことがある	２．分析したことがない

＜含水率＞

含水率（%）注）	

注）分析結果は有効数字３桁で記入する。複数回分析した場合では平均値を記入する。

＜試料量＞

	１回目	２回目	３回目	４回目	５回目
試料量（風乾重量）（g）　注）					

注）配布された風乾底質としての重量を記入する。

＜分析結果＞

回数	分析結果　(mg/kg)　　注１）注２）注３）注４）
１回目	
２回目	
３回目	
４回目	
５回目	

注１）分析結果は乾燥重量を用いて算出する。
注２）検出下限値以上であった場合、分析結果を有効数字３桁で記入する。
注３）検出下限値未満であった場合、ND と記入する
注４）報告下限値未満であった場合でも分析結果が検出下限値以上であった場合には、ND とせずに測定された数値を記入する。

＜分析開始日等＞

分析開始までの試料の保存日数（日）　注１）	（　　）日
機器測定開始までの試験溶液の保存日数（日）	（　　）日
分析日数（日）　注２）	（　　）日

注１）試料受領から前処理開始までの保存期間。
注２）前処理から機器測定までの一連の操作にかかった日数。

＜分析方法等＞

分析方法	１．還元気化原子吸光法　　２．その他（　　）
測定に使用した水	１．蒸留水　　２．イオン交換水　　３．超純水　　４．その他（　　）

分析結果報告書〔5〕　2/3

＜前処理＞

準備操作（前処理）	１．硫酸・硝酸・過マンガン酸カリウム分解 ２．硝酸・過マンガン酸カリウム還流分解 ３．硝酸・塩化ナトリウム分解 ４．硝酸・過塩素酸・硫酸分解 ５．その他（　　）
試薬の添加　注） 硝酸	１．使用する：濃度（　　）mol/L、添加量（　　）mL　２．添加しない
硫酸	１．使用する：濃度（　　）mol/L、添加量（　　）mL　２．添加しない
過マンガン酸カリウム溶液	１．使用する：濃度（　　）g/L、添加量（　　）mL　２．添加しない
ペルオキソ二硫酸カリウム溶液	１．使用する：濃度（　　）g/L、添加量（　　）mL　２．添加しない
塩化ナトリウム溶液	１．使用する：濃度（　　）g/L、添加量（　　）mL　２．添加しない
硝酸：過塩素酸(1+1)	１．使用する：濃度（　　）mol/L、添加量（　　）mL　２．添加しない
その他の試薬（　　）	１．使用する：濃度（　　）g/L、添加量（　　）mL　２．添加しない
加熱方法	１．水浴　２．熱板　３．その他（　　）
過剰の過マンガン酸カリウムの分解	１．塩化ヒドロキシルアンモニウム溶液を使用 ２．その他（　　）
試験溶液の量（定容量）（mL）	（　　）mL

注）使用しなかった場合は選択しなくてよい。

＜測定＞

試料溶液の分取量（mL）	（　　）mL
試薬の添加　注） 塩化スズ（Ⅱ）(10%)（mL）	（　　）mL
硫酸(1+1)（mL）	（　　）mL
方式	１．密閉方式　２．開放送気式　３．その他（　　）

＜標準物質＞（使用した標準物質の種類により、該当する選択肢が無い場合は選択しなくても良い。）

標準物質の種類	１．塩化水銀（Ⅱ）　２．メチル水銀 ３．その他（　　）
標準原液 調製方法	１．自社調製　２．市販品を購入
メーカー名	（　　）
純度・規格　注１）	（　　）
濃度（mg/L）	（　　）mg/L
調製・購入からの経過月（月）	（　　）月
検量線用標準液の調製からの経過日（日）　注２）注３）	（　　）日
標準液調製溶媒 標準原液	１．希硝酸　２．トルエン　３．その他（　　）
検量線用標準液	１．希硝酸　２．0.1% L－システイン溶液 ３．その他（　　）

注１）分かる範囲で記載する。
注２）標準原液をそのまま使用した場合も選択する。
注３）用時調製の場合は０を記入する。

分析結果報告書〔5〕　3/3

＜検量線の作成等＞

検量線 定量方法	１．絶対検量線法　２．標準添加法　３．その他（　　）				
検量線作成点数	（　　）点				
作成範囲濃度（mg/L）	最低（　　）～最高（　　）mg/L				
最低濃度指示値（平均）	（　　）				
最高濃度指示値（平均）	（　　）				
空試験 空試験の指示値（平均）	（　　）				
試料指示値	１回目	２回目	３回目	４回目	５回目
装置検出下限値（mg/kg）	（　　）mg/kg				
装置検出下限値 の算出方法	１．底質調査方法に記載されている方法 ２．JIS K 0121（原子吸光分析通則）附属書に記載されている方法 ３．3σ法で計算　注２） （σの算出法：（濃度：　　ng）（繰り返し回数：　　回）） ４．その他（　　）				
分析方法検出下限値（mg/kg）	（　　）mg/kg				
分析方法検出下限値 の算出方法	１．底質調査方法に記載されている方法 ２．JIS K 0102 66.に記載されている数値から換算　注１） ３．JIS K 0121（原子吸光分析通則）附属書に記載されている方法　注１） ４．3σ法で計算　注２） （σの算出法：（濃度：　　mg/kg）（繰り返し回数：　　回）） ５．その他（　　）				
濃度計算に用いた式					

注１）JIS では分析方法定量下限値となっている。

注２）ここでσは特定濃度の対象物質を繰り返し測定し、得られた標準偏差をさす。

分析実施にあたっての留意した点及び 問題と感じた点	